

発刊に当たって

科学技術の重要性がかつてないほど高まっている今日、我が国においては、次代を担う科学技術系人材の育成及び国民の科学に関する基礎的素養の向上のため、科学技術の土台となる理数教育の充実を図ることが喫緊の課題となっています。

一方、日本の子どもたちの理数教科に対する関心は、OECDのPISA調査結果などから見ても、国際的に低い傾向にあることが明らかになっており、理科の授業においては、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させ、科学への関心を高める工夫が求められています。

このような状況を背景に理科の学習指導要領が改訂され、昨年4月の小学校をはじめとして、本年4月からは、中学校においても全面実施されるとともに、高等学校においては理科と数学について入学生から先行実施される運びとなっております。いずれの校種でも、その内容としては、「理数教育の充実」を改訂の柱に掲げ、観察・実験や探究的な活動の一層の充実が求められているところです。

北海道立教育研究所附属理科教育センターでは、この理科教育の充実を支援するため、各校種の研究連携校と連携しながら、自然の事物・現象に対する興味・関心や探究心を高める教材及び科学的思考力を育成するための学習プログラムを開発して参りました。また、大学や専門機関と連携して科学技術の発展に対応した先進的な理科教育の在り方についても、研究を進めてきたところです。

本研究紀要は、平成23年度に当センターの職員及び研究連携校の担当者が取り組んだ調査研究並びに当センター職員の支援の下、フリープラン研修受講者が取り組んだ教材開発等の成果をまとめたものです。また、何かと御指導いただいてまいりました文部科学省初等中等教育局教科調査官林誠一様からは特別寄稿をいただきました。心より感謝申し上げる次第であります。

最後になりましたが、本研究紀要が、各学校における教材研究や研修会、創意工夫を生かした理科の授業など、様々な場面で活用され、本道の理科教育の振興に広く役立てられることを願い、発刊に当たってのご挨拶と致します。

平成24年 3 月

北海道立教育研究所長

酒 向 憲 司

.